

## 新刊図書の紹介

魚のすみよい川づくり

# 『魚道のはなし』

～魚道設計のためのガイドライン～

平成7年7月発行

サケやアユを川に呼び戻そうという運動が各地で盛んになってきている昨今、「魚が棲みやすい川づくり」にとって重要な「魚道」をテーマにした専門書、『魚道のはなし』が、当センターの編集で刊行されました。

魚道は、その言葉のとおり魚が川を行き交うことができるようにつくられた人工的な道のことであり、魚は日常的に川を上ったり下ったりして生活しています。魚道を考えていくことは、魚を単に水産資源としてみるのではなく、そのライフサイクルや、ひいては周囲の生態系全体を考えていくことなのだ、と著者は説きます。

著者は、豊橋技術科学大学の中村教授。十五年ほど前から、世界でもまだ珍しいこの分野に興味をもち、海外の実例を実見したり、世界の魚道研究者と情報交換しながら研究を重ねてきましたが、本書は、各地でなされた講演録をベースにまとめられたもので、魚道の歴史・役割・設計にかんするノウハウなど魚道にかんする総合的な内容が盛られ、まだ新しい分野であるこの領域の最新のデータが掲載されています。



著者 中村俊六  
編集 (財)リバーフロント整備センター  
発行 山海堂 定価 2,600円(税込み)

## 発行予定の図書の紹介

「木曾(木曾川、長良川、揖斐川)の伝統漁」

一人と魚の知恵くらべ

著者：和田 吉弘

編集：財団法人リバーフロント整備センター

発行：山海堂

概要：本書は川漁師の知恵の結晶である漁法から魚の生態を解きあかすヒントを見つけ、魚の棲みやすい川づくりの一助となればとの思いで企画されたものです。さらに、木曾三川では、伝統的な漁法や漁具についてまとめられたものが昭和の初期以来、世に出ていないことから、これ以上伝統漁法が衰退しないうちにまとめておく必要性を強く感じ、現時点でわかるものは最大限網羅してまとめてあります。

「一フィールド総合図鑑一川の生物」

監修：水辺の生物図鑑編集委員会

編集：財団法人リバーフロント整備センター

概要：本書では、河川で一般的に生育する代表生物約350種(魚類、鳥類、昆虫、植物、その他)を網羅し、生態と生息環境の係わりを中心に解説しています。